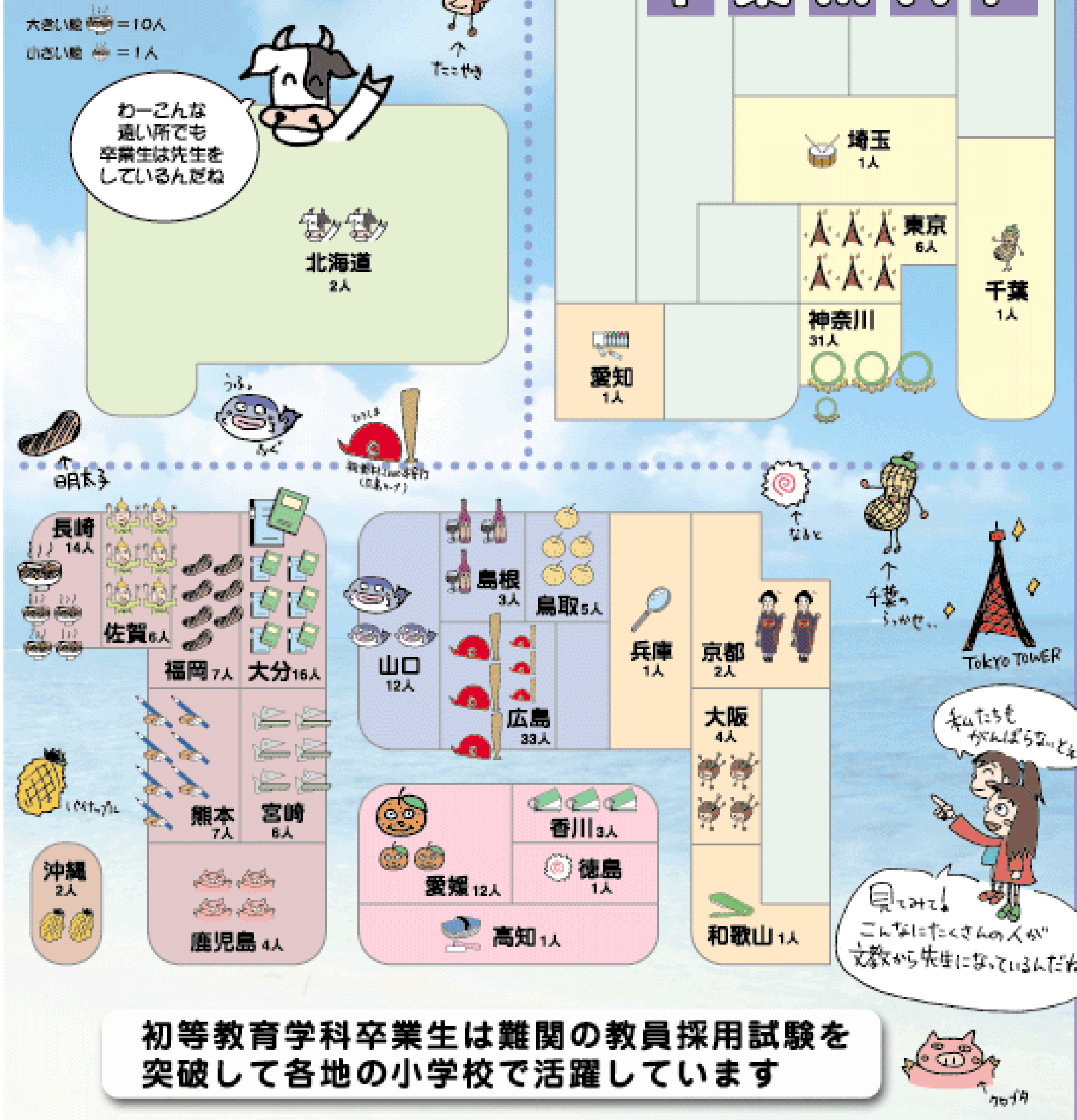
卒業MAP

教員採用試験県別合格者

（H8～H17）



初教の仲間からひとこと

～「広島文教教育」の返信ハガキより～
（　　）は旧姓

（平成16年現在）

初教11期生　木吉　由美（元田）
10月1日付で、広島転勤となり、また広島で生活できることを嬉しく思っています。3児の母となり、毎日楽しく、あわただしく過ごしています。

初教11期生　梶谷　祐子
4月から学校図書館補助員として勤務しています。本を読むことが大好きな子供たちに囲まれて、楽しく過ごしています。

初教12期生　南原　陽子（今田）
9月末に一歳になる息子と毎日楽しく過ごしています。出産って女性の特権！子育て（親育ち!?）って面白い。息子に感謝感謝です。

初教13期生　西下　有美枝（黒石）
現在一児の母です。仕事を2年半休んで育児に専念することに決めました。やっと1年たちましたが子育てはやっぱり大変です。もちろん成長の喜びは大きいですよ!!

初教13期生　池川　恭子
母校で迎える新採2年目。今年は6年生の担任です。しかも学校は創立100周年。たくさんの仕事に追われ、プレッシャーにつぶされそうになり…、けれども、6年担任としての喜びを、しんどさ以上に感じはじめた今日この頃です。

初教14期生　中本　裕子（永田）
9月12日で娘は2才になります。毎日三輪車で団地内を暴走中です…。最近、近所の男の子とよく遊び、ますます野生化してきました。11月は七五三で着物を着る予定だけど似合うかな？

初教15期生　小西　紀子（西田）
去年5月10日に娘を出産し、のんびりとした母と子2人の生活を送っていましたが、9月から職場に復帰し、保育士＆母親＆妻の三足のわらじをはいて、毎日がんばっています!!

初教16期生　林　奈保
今年度、養護学校から小学校へ異動しました。2年生31名の担任をしています。今までとの違いも大きく、試行錯誤しながら、日々反省…です。もっともっと子どもたちと心が通いあえるように頑張ります。

初教16期生　佐々木　章子
学童保育の指導員と保育所でのお手伝いをかけ持ちでやっています。0歳から10歳まで元気いっぱいの子どもたちと楽しく過ごしています。教師にはならなかった私ですが、初教で学んだ事が活かせる仕事ができ、嬉しく思っています。

初教17期生　黒崎　京子
元気があり過ぎる1/2くらいエネルギッシュな3年生のおぼっちゃま、おじょうちゃま達と毎日、たのしく勉強してます！

初教18期生　武田　瞳（福田）
6ヶ月になる娘と毎日楽しく過ごしています。人を見ては笑顔をふりまく、愛嬌のいい娘です。

初教19期生　三宅　敦子
今年の4月から、短大の図書館で司書をしています。学生や先生方にとって、もっと利用しやすく、居心地のいい図書館にしたいとがんばっている毎日です。

初教19期生　横山　文
仕事も2年目。今の環境に慣れ、子どもたちと楽しくかかわりながら日々の生活を送っています。息抜きに絵を描いたり、旅に出たり、充実した日々を送り、ありがたいと感謝しながら過ごしています。

初教20期生　山岡　奈月
今、小学校で初任研講師として勤務しています。担任の先生も文教出身で、とても心強い毎日です。

特別企画　あの先生は今！　神原先生

新コーナーということで、はりきって取材に行って来ました。携帯にキラリと光る広島人の心、もみじ饅頭ストラップ。懐かしい笑顔は、以前と寸分も違わぬ輝きを放っておいででした・・・。現在、東京の大学にお勤めになっている、マーサこと神原雅之先生に思い出をじっくりと伺いました！

神 神原先生
宗 宗藤先生

宗 文教を離れて、現在は東京の国立（くにたち）音楽大学にお勤めなんですよね。文教を含めて何か特に感じられることはありますか？

神 音楽大学なので、音楽の質に対するこだわりが強いですね。学生も教員も、音楽の質を落とさないことが将来のために大切だと考えてるんです。文教でも、文教らしさを失わないで教育の質を維持する。このことは、どこでも大切なことだと思います。

宗 深いお言葉ですね。そういえば、文教にはどのくらい勤められたんですか？

神 大学卒業後すぐに文教にお世話になって、28年間過ごしたんです。初めて文教でお世話になった時に寄宿舎がありまして、武田ミキ先生の奥の建物に一部屋お借りして住んでいた時期がありました。その頃のことがつい昨日のことのように思い出されます。

宗 そうだったんですか～。音楽との出会い、先生になるきっかけなども教えてください。

神 小学校の時、ピアノを手ほどきしてくださった先生とのかかわりがとっても大きいなと思っています。音楽っていうのは一人で楽しむことができますが、皆でアンサンブルする楽しさもあります。一人ひとりは異なる旋律やリズムを弾いてるんだけど、それを重ねると、ひと味違ったサウンドになる。音楽ってそれが素敵なところだと思うんですね。その後、ずっといろんな音楽と出会ってきましたけど、私は最初の一歩のところで素敵な先生との出会いがあったと思います。

宗 なるほど。私、先生が踊るようにピアノを弾いておられた姿が強く印象に残ってるんです。「楽しさ」はそこに由来しているんですね。では、先生にとって文教はどんなところですか？

神 文教っていうのは、人一倍きめ細かい教育を行っているということを（今、新しい環境に移ってみて）改めて感じますね。チューター制や年間行事など、学生と教員が膝をつきあわせているというのも、文教ならではの取り組みなんじゃないかなと思います。この人間関係が深いというところは、他の大学にはない文教の持ち味だと思いますよ。こういう部分を大切にして（仲間とのかかわりを特に楽しんで）皆さんには有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。

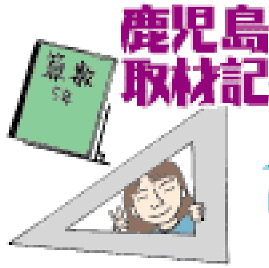
宗 東京での生活のことなど、他にもたくさんのお話を伺ったのですが、全てご紹介できないのが残念です！最後に、先生からお勧めの本を伺いました。

神 「子どもが育つ魔法の言葉」（ドロシー・ロー・ノルト著）。これはいい、心が洗われるよ。教育に携わる人はみんな読んだ方がいいと思うよ。

興味を持った方は是非読んでみてくださいね。

神原先生、長時間の取材に御協力いただきありがとうございました！とても充実した時間でした。先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

突撃レポート！　鹿児島取材記



鹿児島市立伊敷台小学校教諭
中迫　千織さん
（初教20期生）

広島から約4時間、JR九州新幹線「つばめ」に乗って、鹿児島県へ。福岡、佐賀、熊本と車窓から九州の風景を眺めながら、「こんなに遠くからもたくさんの方が文教に来てくれてるんだなぁ。」と感慨深い気持ちでいっぱいになりました。

（方言） 文教にいた4年間で身についたはずの「広島弁」が、全く話せなくなっていた中迫さん。私たち（山田悦子14期生、中島雪絵18期生）が話す広島弁を聞いて、何度も「懐かしい！」と感動しておられました。

（立地） 中迫さんが勤める伊敷台小学校は、鹿児島のビバリーヒルズと呼ばれる住宅地にある新しい小学校で、天気の良い日には桜島を見ることができるそうです。（この日はあいにく曇り空でしたので桜島は見えませんでした。）

（ボランティア） 小学校へ到着後、校長先生より学校のことや中迫さんの様子を聞かせていただきました。先生方や子どもたちの誰かが何か作業や準備を始めると、一人二人と他の先生や子どもたちが「手伝いましょう」と自然に集まってくるそうです。このような姿がボランティア意識につながって皆で助け合うチームワークに包まれて、中迫さんは5年生33名の子どもたちと楽しい学級づくりをされていました。

（授業） 5時間目の算数の授業を参観。何を（定規・三角定規・分度器・コンパス等）使っても良いので垂直の書き方を見つけ出そう、教室の中や自分の持ち物から垂直を探し出そう、という45分間でした。作業にしっかり時間を取り、子どもの様子を見てまわり、多くの子どもに発表の機会をつくる。発表する子どもは、みな堂々としかも喜んで黒板に自分の考えを書き、説明していました。発表への促し方が実に自然で、一人ひとりの子どものことを本当に良く知っている先生なんだろうな、と感じました。

（今、想うこと） 学生時代を振り返って、懐かしい思い出話で盛り上がりました。徳本先生を中心に集まった仲間同士で、涙を流しながら教育論をぶつけ合った学友会センター和室での学習合宿。杉山先生と一緒にはるばる富山県での研究授業に参加したこと。すべてが昨日のことのようだけど、あの時のように皆が簡単には集まれない。電話しようかなと思っても「忙しいかな。」「迷惑かな。」と気を遣うこともしばしば。学生時代には友だちと会ったり話したりと当たり前だったことが、すごく貴重なことだったと実感する。だから、どうか学生の皆さんは、今しかない学生の時間を大切にいろんなことに励んでもらいたいと強く願われていました。

（目標） 中迫さんが勤めている小学校には、中迫さんの目標となる先生方が多くいらっしゃるようで、「2年後、5年後、10年後、自分はあんな教師になっていたいな。」と一緒に働く先生方がまさに目指す教師像だそうです。教師という仕事が本当に合っていると実感する毎日という中迫さん。初任校では、「教師としての基礎づくり」と決め頑張っておられました。これからも、益々のご活躍をお祈りします。

末筆ではありますが、今回の取材を快諾してくださった木戸校長先生をはじめ、伊敷台小学校教職員の皆さま、児童のみなさまに心より感謝申し上げます。